

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和 8年2月 1日		～ 令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な職員が配置されている所。	理学療法士、公認心理師等、様々な職員を配置しており、個々の課題に沿って、より専門的な支援を提供している。	専門的な職員を中心に、児童指導員等の職員も専門的な支援を学び、スキルアップを目指し、日々の支援に活かしていく。
2	保護者の皆さんから安心して信頼される支援を提供する。	どの職員が対応しても、しっかり、報告、連絡、相談をしていき、保護者の皆さんとの関係を築いていく。	普段の送迎時や、お迎だけじゃなく、家族支援を提供していき、普段より深い話ができるようにしていき、保護者の皆さんから、信頼と暗視を持ってもらえるようにしていく。
3	子ども達が、興味を持ち、楽しいと思える支援を提供する。	個々に沿った支援や、利用児童全体に提供する支援で、プログラムを変えて、飽きがでないように、カード、運動、言葉遊び等を取り入れながら、子ども達の興味をひき支援していく。	子ども達の経験していない事、自然の中での遊びや生き物を学ぶ等、普段できない支援を職員が学び、支援として提供していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が少ないこと。	屋外活動はあるが、地域の大人や子ども達と関わる機会がかなり少なかった。	屋外活動での場所の貸し切り等で、地域の子がいても中に入ることが出来なかったため、共有の場での活動、市域の子達も気軽に入ってこれる環境を作っていく。
2	児童発達支援の受け入れがまだない。	放課後等デイサービスの利用児童しかなく、未就学の児童がいない。	未就学の支援も行っていることを、保護者や地域の子ども園、認定保育園等に発信していく。
3	職員によって専門性のある支援の提供に差がある。	勤務時間や、研修の日時等で、職員全員が揃って研修が出来ない事が多い。	研修を受講した職員が、ミーティングや空いている時間に他職員に報告を行う事や、研修の資料を全職員で共有する。